



阿地整第8000号
平成19年5月1日

国土交通省道路局長 様

山口県阿東町
町長 田 中 義 隆



中期的な計画作成に向けての意見の提出について

このことについて、別紙のとおり提出いたします。

中期計画作成に向けての意見

山口県阿東町

町長 田 中 祥 隆

はじめに

阿東町は山口県北東部に位置し、島根県津和野町と山口市並びに萩市に囲まれた中山間地域である。

行政面積293㎢、人口約8,000人、高齢化率約41%、森林面積は総面積の約85%に相当する249㎢であり、主たる産業は農林業の町である。

また、本州最西端の天然雪によるスキー場があるように冬期には毎年かなりの積雪があり、国道、県道、町道の除雪対策に多大な苦勞を強いられている地域でもある。

平成12年からの市町村合併特例法による市町村合併に際しては諸般の事情から相手に恵まれない県下唯一の町であったため、現在単独町政を行っているが、今年山口市に合併協議の申し入れをし、現在双方で事務的調査に着手を始めたところである。

地域内の道路状況については、国道9号が東西約30km、国道315号が南北約23km、主要県道11号を含む県道約89km、町道総延長246kmの道路網が国道9号を縦軸に「≠」の字状態に接続している。しかし、他市町とは5ヶ所のトンネルによって接続しているため、極めて孤立した印象を与えている。とりわけ国道9号木戸山峠は山口市との一体感を大きく阻害する要因になっている。

しかし、全人口の約75%が運転免許保持者であり、自家用車による通勤、買物等の動向は山口市が中心であるため国道9号は住民生活にとって重要な幹線道路となっている。

一方で年間約70万人以上の町外からの観光客等の交流人口は、その大半が国道9号を軸にしていると推計される。

阿東町の意見

(1) 受益者負担の原則は守られるべきである。

約6,000人にもなる町民が自動車（バイクを含む）による生活をしている町であり、それ相当の税を負担している。

町行政は246kmもある町道の維持管理、改良、未舗装道路の解消に今後も継続して努める責任があり、今後とも地方道路交付金事業による道路改良は財政力の弱い本町にとって必要不可欠な事業であり、道路特定財源の一般財源化には反対である。

(2) 地域生活を支える道路政策を行ってほしい。

国道9号の木戸山峠の別ルート化を早期に実現してほしい。このことは県、国交省出先機関等に10年近く要望し続けている。トンネル内や山口市側で重大な事故や大雨による法面崩壊等が発生すれば地域の生活に支障を来し、山口市と市町合併にも大きな影を落としている。

また、国道9号は昼夜ともに長距離トラックが多く走行するが、木戸山峠は山が急峻なため2車線ではあるが、登坂車線が設置されておらずトラックの後続車はノロノロ運転を余儀なくされており多くのドライバーが難渋している。

(3) 地域の安全、安心の確保をしてほしい。

阿東警察署が19年4月1日より山口警察署に統合され、地元は幹部交番となったことにより、防犯パトロールは山口市から本町をカバーしていること。また、救急医療、入院等の二次医療はほとんど山口市となっていることから、国道9号は地域の安全、安心の面から本町にとって極めて重要な意味をもつルートである。よって木戸山峠の別ルートの実現はもとより、国道9号の適切な維持管理をお願いしたい。